

令和元年度第1回兵庫県立図書館協議会 会議録

1 日時及び場所

令和元年9月17日(火) 10:00~12:00
兵庫県立図書館第2研修室

2 出席者

朝野委員 角本委員 川石委員 崎野委員 仲井委員 長谷川委員 原田委員
廣岡委員 松中委員 三浦委員 森玉委員

県立図書館 岡田館長 井上次長 梶本総務課長 西田利用サービス課長
高宮ふるさと・資料課長

教委事務局 社会教育課入江副課長兼施設・管理班長 瀧口主任指導主事

3 会長、副会長選出

会長に廣岡委員、副会長に角本委員が選出された。

4 議事

(1) 報告

①平成30年度県立図書館運営状況、②県立図書館中期運営方針の自己評価、③令和元年度県立図書館運営状況(4~8月)について、次長が報告した。

(2) 委員の主な意見及び事務局の説明

(委員) 本を読む環境は良いのに、空席が目立っており、もったいないと感じた。

(委員) 女性の利用者が少ない。高齢の男性利用者が多い。

(委員) 広報をもっと上手に活用すれば、図書館の魅力が伝わるのではないかと。

(委員) 特別展示等をしていても、県全体に広まっていないのが課題。もっと宣伝しないと伝わらない。

(委員) 落ち着いた雰囲気、造りが立派。市町立図書館は同じ時間帯、曜日でも賑わっているが、県立図書館は静か。市町立図書館も高齢の男性利用者が多い。

(委員) 特別展示の期間中に、関連した資料の貸出冊数の統計は取っているのか。

(図書館) 展示ごとの貸出冊数の統計は取っていない。

(委員) コアな本を売りにしてみてもどうか。例えば、県立図書館は明石公園の中にあるので、明石城に関する本を集める、明石の食材や食に関するコーナーを設けてみる等良いのではないかと。

(委員) 活字にふれる機会が少ない人のために、朗読CD等があれば良いと思う。

(委員) 特別展示が素晴らしいと思う。その分野が好きな人にはとくに魅力的だと思う。また、新刊コーナーに他館にない非常に興味深い本があった。来館者が少ないということで悩んでいると思うが、この図書館が何を指すのか考えていかなければならない。研究するための専門的な図書館か、新しい本があり、賑わいのある楽しい図書館か、前者のような図書館が県立図書館として1つぐらいあっても良いのではないかと。広報については、ホームページやフェイスブック等は予算が少なくても利用できるツールだと思うので、積極的に活用してみてもどうか。

- (委員) 試写室や研修室等については、利用実績があまりないとのこと。なにかうまく使えないかと思う。また、県立図書館がどのような図書館なのかわかりにくい。姫路セントラルパークのように自虐的な宣伝も良いのではないか。
- (委員) なぜ予算が少ないのか。予算がなければ、「図書館の図書館」としての実態が伴えない。県と連携して、県民のためにしっかりと予算を確保しなければならないのでは。
- (図書館) 予算については、行政改革の関係で、カットされ少なくなっている。本庁には今後も要求を続けていき、予算を獲得したいと思うが厳しい状況である。
- (図書館) 今後も本庁に要求は続けていくが、現状からみて予算が急に増えることはない。現在の少ない予算の中でどうすれば最大の効果を得られるかが我々の課題であると認識している。
- (委員) 社会教育課を通じて予算要求は試みているが、なかなか難しい一面がある。例えば文科省等からの外部資金の確保も含めて考えていく必要があるのではないかと思う。
- (委員) 県民にとって使える図書館であるかどうかが大切。本当に予算が必要であれば、県民を動かしてでも予算を確保していかなければならないと思う。また、「図書館の図書館」としては、現在それぞれの図書館によって取扱いが異なるサービスの統一や向上、ネットワークづくりに努めていただければと思う。
- (委員) この図書館しかないという希少な本はあるのか。例えば久坂葉子の同人誌は全国的に少ないと思うが。
- (図書館) 一般本と行政資料を集中的に集めている。
- (委員) 基本的に県立図書館は市町立図書館が買える安価な本以外の高価な資料を収集することで、市町立図書館への支援を行っている。稀覯本は少ない。
- (委員) 研修室、試写室の活用は重要だと思う。駅から歩いて来館するには確かに不便な立地だが、明石公園には珍しい鳥がいたり、おもしろい形の木があったり、子どもたちにとって楽しめるポイントがたくさんある。例えば青少年団体であったり県と関連の深い団体等に試行的に研修室、試写室の貸し出しをすれば、図書館へ足を運ぶきっかけになるのではないか。
- また、展示関連講座は様々な分野の講座があり、おもしろいと思うが、例えば、明石ブラ散歩やランニング講座を今後県立図書館の活用にどのように繋げていくかが課題。講座は入り口であって、講座等をきっかけに図書館を活用してもらえるよう利用者にアプローチしなければ、リピーターに繋がらない。入り口を広げるためのアプローチとリピーターを増やすためのアプローチがもっとあれば、より利用者の満足度が向上するのではないか。調べ方講座等があればリピーターが増えるのではないか。
- (図書館) 利活用講座、展示関連講座については、まずは図書館へ足を運ぶきっかけとなるように、こまめに開催している。
- (委員) 「図書館の図書館」ということを目的としているのであれば、県立図書館にしかないものを打ち立てて、量より質を高めてはどうか。県民にもアピールはしなくてはならないとは思いますが、まずは市町立図書館に向けて県立図書館にしかないものをアピールすることから始めてはどうかと思う。
- (委員) 県立図書館から見渡せる景色は美しく、不便な立地はマイナスでもあるが、アピールできるポイントでもあると思う。
- (委員) 全国の図書館が、駅前等、立地が良いところへ移転している。便利なとこ

ろへ行けば、来館者数が増えるのは当然のこと。地域の図書館は単なる本の貸出拠点からまちづくりの拠点に、という大きな流れが全国的にある。明石公園で今後も運営を続けるのであれば、不便な立地をうまく活かすしかないと思う。講演、講座等市町立図書館にできることは、市町立図書館に任せ、県立図書館にしかできない特化したプログラムをしていただけたらと思う。例えば、競技場や、球技場が図書館の近くにあることから、アスリートのための図書館、あるいは世界の鳥や昆虫や植物等自然に関する事ならなんでもわかる図書館等、特化した取組があればファンは根付くと思う。

(委員) 自立するためには連携が大切であると考えている。様々な施設と連携している事業がヒントになるのではないか。明石高等学校との連携による、生徒の美術作品の展示等は賑わいという観点からは良いのではないか。「図書館の図書館」だからといって、人がいないのは寂しく感じるので、私としては量も気にしてほしい。

(委員) この1年はリニューアルして図書館がどうなったか問われる年だと思う。利用者にとっても、そして図書館の職員にとっても手応えを感じられるようなもの、アピールできるものを見出していかなければならない。そこから予算の獲得に結びつける流れが欲しい1年だと思う。

(委員) 県民には、県立図書館の取組をアピールする努力をしていると思うが、努力する方向性を県職員にも向けてみても良いのではないか。県職員にアピールできていない、イコール、予算についてアピールできておらず、知事にも届かないと思う。そうなれば、予算も人も削られていくのは当然である。具体的には、県職員に向けてチラシを配る、メールを配信してみる等、中長期的な計画にはなるが、少ない予算の中でもできることだと思う。

(委員) 県立図書館が発行している刊行物が、置いてある図書館と、置いていない図書館がある。置いてあったとしても部数が少なく、すぐになくなってしまふ。刊行物自体は良いものなので、もっと宣伝してはどうか。

今後のターゲットは若者だと思う。若者の読書離れが進んでいるので、県立図書館で若者の読書離れを止められるようなものを打ち出して欲しい。